

# 人手不足対策で講演

## 佐竹製作所 外国人材活用テーマに

〔株〕佐竹製作所（東京都千代田区）の尾方謙一社長は2月10日、銀座プロッサム（中央区）で開催された「人手不足対策シンポジウム」主催・東京商工会議所中央支部建設・不動産分科会」において、「外国人材活用」をテーマに講演し、成長し続けることが人材確保と定着の鍵であり、好循環を生み出す基盤となるとの考えを示した。

同シンポジウムは、人手不足が多くの企業にとって喫緊の経営課題となる中、具体的な対応事例を共有する目的で開催され、77名が参加した。

尾方社長の講演概要は次の通り。



会場の様子

頃から外国人技能実習生の受け入れを開始した。その後、2020年の新型コロナウイルス感染症拡大により海外からの人材流入が制限される一方、生産需要は増加し、急激な増産対応が求められる事態となった。

置賜郡）を中核としながら、センサ事業、カスタム部品事業、半導体関連部品事業に加え、外国人材活用支援事業やリノベーション事業など多角的に事業を展開している。グループ全体ではフロントオフィスからバックオフィスまで1000名を超える外国人材が在籍し、製造現場に加え設計、生産管理、購買管理、品質管理、経理、貿易業務、営業など幅広い業務領域で活躍している。

同社グループでは、金属加工を担うFA部品事業（山形工場）山形県西

「外国人材活用」を始めた背景としては、山形工場のある地域で人口減少や高齢化が進み、採用難や離職の常態化が課題となるなど慢性的な人手不足に直面したことがある。このため2014年

納期の製造体制においても安定した生産性を確保している。

また外国人材の定着と戦力化に向けては、賃金水準の見直し、長期就労を見据えた在留資格取得支援、住居支援、企業内託児所の整備など、生活面を含めた包括的な受け入れ体制を整備している。特に地方においては生活基盤の安定が人材定着に直結するとの考えから、雇用と生活支援を一体で設計している点が特徴である。

そして今後の日本社会

社内報、パンフレットなど）または電子媒体（ホームページ、SNS等）においてご使用いただく際には、事前に弊社の許諾を得ていただきますようお願いいたします。

た。

なお同シンポジウムでは同社のほか、〔株〕ワカルの石川沙絵子社長が「女性活躍」、〔株〕松村工

ンシニアリングの松村喜秀会長兼社長および松村聖津子常務が「シニア活用」について講演を行い、参加者からは「大変参考になった」「さらに具体的に話を聞きたい」といった声が寄せられた。